

・細胞診試料の種々の問題点にまで追求している。総じて、載せている写真も形態学を理解しやすくするために、鮮明なものを豊富に用いており、厚さも手頃なものといえよう。

京都府立医科大学産婦人科助教授 山本 宝

Complications in gynecologic surgery: Prevention, recognition, and management
James W. Orr Jr. and Hugh M. Shingleton

J B Lippincott Co. ￥14,620
(医学書院・洋書部調べ)

婦人科では、骨盤外科ともいわれるように、子宮癌や卵巣癌など骨盤内臓器の疾患の外科的治療が中心となることから、それらにともなう周辺組織の損傷など、様々な合併症が発生する。したがって、婦人科臨床を行うにあたっては、手術の術式を習得するだけでなく、これらの手術療法にともなう発生する各種の合併症あるいは副損傷を、その発生機序や治療法を含めて十分に理解しておくことが必須といえる。本書では、循環器系・呼吸器系・造血器系など麻酔や手術操作にともなう一般的な合併症は勿論、婦人科の手術につきものの尿路系の合併症やリンパ管系の合併症についても詳細に解説されている。尿管や膀胱の損傷についてはその修復手技を図解して、実際の取扱いを解説している。また、広汎子宮全摘術などに関しても、骨盤内の神経支配から図解し、膀胱障害や直腸障害をいかに少なくするかが解説されている。

このように、本書は研修医だけでなく実際の臨床に携わるすべての産婦人科医にとって参考となる情報を満載しており、本棚に備えるべき参考書の一つであるといえよう。

京都大学医学部婦人科産科助教授 佐川 典正

Female Urology
E D Kursh and E J McGuire

J B Lippincott Co. ￥20,230
(医学書院・洋書部調べ)

本書の編者は二人とも泌尿器科医であるが、各項目の執筆者には泌尿器科医のほか産婦人科医も加わり、総計584頁にもおよぶ立派な書物である。

われわれ産婦人科医はともすれば、色々な泌尿婦人科学の問題について、知識の不十分さゆえ、このまま非手術的にすすめてよいものか、手術を行うかの選択にしばしば戸惑うことがある。したがって、泌尿器系の悩みを抱える女性患者の不安をよりよく解消していくには、産婦人科医自らが泌尿婦人科学の分野にも興味を持ち、研究や教育を行ってゆくことが大切である。幸いにも、一方ではこの分野の必要性や、さらに発展させていく努力の必要性が、多くの臨床家の間で理解されているのも事実である。これからの高齢化社会を考えると、泌尿婦人科学は女性の健康維持には欠かせない領域といえる。

この書物は、われわれ産婦人科医が理解を深めていくことが今後必要とされる女性の泌尿器学について、限なく review している。また、本書は女性が直面する種々の疾患や問題について、解剖、病態生理学の面より理解しやすいよう論理的に解説している。8章から構成されており、内容は①解剖と生理学、②排尿筋と失禁、③尿道失禁、④膀胱・性器脱の処置、⑤泌尿器生殖器の損傷、⑥膀胱腔瘻、⑦緊急、かつしばしばみられる症状などの項目に分けて論じている。とくに、読者が理解をしやすいよう shema が随所に取り入

れられており，手術法もわかりやすい shema が使われていると思う。

京都府立医科大学産婦人科助教授 山本 宝

EXERCISE 解答					
4	(16) b	(17) c	(18) c	(19) c	(20) b, e
5	(21) e	(22) d	(23) c	(24) e	
6	(25) d	(26) e	(27) a	(28) e	(29) a

研修コーナーの利用法と注意点

- 1) 研修コーナーのテーマの内容は，minimum requirement のものにし，初期研修に役立つものにした。
- 2) 各号ともテーマはなるべく一つの分野に統一するようにした。
- 3) 内容には日本産科婦人科学会で決められた定義などをなるべく導入した。
- 4) 内容に関しては執筆者の policy を重んじ，記述は常識の範囲内で，必ずしも学会の見解とは限らない。
- 5) 研修コーナーの内容は必ずしもここまで実施しなければならないという医療水準を示したものでもない。
- 6) 各設問に対する正解を示したが，考え方によっては他に正解を求めることができるものもある。解答は学会の統一見解以外はあくまでも参考とすることにした。

中央認定医制度委員会委員長 矢内原巧
研修コーナー編集委員会委員長 荒木 勤

研修コーナーに会員皆様の声をお寄せ下さい。
「今月の研修テーマ」に対する質問や，テーマの要望，執筆者の推薦など何でも結構です。
また推薦図書や書評，エッセイなども歓迎いたします。下記の宛先にお送り下さい。

宛先：〒162 東京都新宿区市ヶ谷砂土原町1-1
保健会館別館内
日本産科婦人科学会
研修コーナー編集 係